

米集荷・検査始まる



検査スタート コシヒカリ1等97・1%

8日、JA片貝低温倉庫で、平成28年産米の初検査を行いました。

同日は、うるち米の「コシヒカリ」、「こしいぶき」、もち米の「こがねもち」、酒造好適米「五百万石」が合計1961俵（1俵60^{kg}）を持ち込まれ、「コシヒカリ」は901俵（1俵60^{kg}）を検査し、1等米比率は97・1%となりました。

農産物検査員が、集荷した米袋から穀刺しを使って玄米を取り出し、検査用の皿に載せて、米全体の形質や整粒歩合などを確認。検査員は1等米の基準をクリ

アした米袋に次々と「1等」を示す印を押ししていきます。検査は、管内4力所で実施し、10月上旬頃まで続く予定です。

9月16日現在 検査結果

16日現在の1等米比率は85・3%で、検査結果は次の通りです。

集荷予定数に対する集荷率は18・8%で、2260等米19290・2俵、2等米19290・2俵、3等米2996・5俵、4等米281俵、規格外米41俵という結果でした。



▲色彩選別機の説明を受けるJA役職員



▲意見交換を行うJA役職員と商系業者

平成28年産米情勢を意見公開

「魚沼米懇談会」

9月15日(木)、越後おぢや、北魚沼、しおざわ、十日町、津南町、魚沼みなみの魚沼地区6JAで構成する魚沼米対策協議会は、南魚沼市の越路荘で平成28年度魚沼米懇談会を開きました。

懇談会には全国の米卸や国・県の関係機関、JA全農にいがた、魚沼地区のJA役職員ら、総勢76人が参加し、魚沼産「シヒカリ」の販売について意見を交わしました。

当日は、平成28年産米の重点取り組み事項として、「魚沼米憲章」に基づく米づくりの推進・実践項目について、①環境保全型農業の実践と安全・安心への取り組み、②品質・食味向上対策、③農産物検査の拡充、④「高品質・良食味米」の維持向上のための10か条、⑤「安全・安心の米づくり」に向けた5か条などが報告

されました。また、育成概況として、育苗期から出穂期まで、好天や高温傾向であったことから苗の生育がすすみ、田植時期が4日早まったこと、出穂時期も3日程度早まったことが報告され、今後の生育と作柄予想として、刈り取り適期も平年に比べ早まっていることから、穂の黄化具合を確認して適期刈り取りにより品質確保を図ることが伝えられました。作柄予想は北

陸農政局の発表でもみ数は平年並みで、登熟がやや良と予想されていることから、作柄はやや良が見込まれていることも合わせて報告されました。

意見交換会では、米卸から「魚沼産」シヒカリはトップブランド、安定した品質・供給をさせていただくことで販売につなげていきたいなどの声があがりました。

全カントリーに色彩選別機導入

当JAは、小栗田の第一カントリーに色彩選別機を導入しました。第2カントリー、片貝カントリーに続いて3台目で当JAのカントリー施設すべてに導入されました。

色彩選別機は、白米や玄米の中からカメムシ被害粒や着色粒を検出し、不良品を取り除く機械で、大きさ・形状・比重による選別で除去できない変色したものを取り除くことができます。

当JAの藤島睦常務理事は「これで、3カントリーすべてに色彩選別機が導入された。この機械を有効利用する中で、出荷米の品質向上を図り、魚沼産「シヒカリ」の有利販売に努めたい」と話し、魚沼産「シヒカリ」をはじめとする越後おぢや米の一層の品質向上に取り組みます。